

名古屋大学博物館野外観察園の蘚類 (予報)

Mosses of Nagoya University Museum Botanical Garden: a preliminary report

坪田 博美 (TSUBOTA Hiromi)¹⁾・吉野奈津子 (YOSHINO Natsuko)²⁾・
西田佐知子 (NISHIDA Sachiko)³⁾

- 1) 広島大学大学院理学研究科附属宮島自然植物実験所
Miyajima Natural Botanical Garden, Graduate School of Science, Hiroshima University
- 2) 名古屋大学全学技術センター
Nagoya University Technical Center
- 3) 名古屋大学博物館
The Nagoya University Museum

Abstract

Mosses of the Nagoya University Museum Botanical Garden, Aichi Prefecture, central Japan, were collected and identified. Nine species were recognized along the main trail in the western part of the garden. Among the specimens, three of them were found on a tree trunk, three were on the ground, one was on an algae mat in a water pool, and two were in a green house. Considering that still more diverse habitats are left unexplored, there will be more species to be found in the garden by further studies.

はじめに

名古屋大学博物館野外観察園 (以下「野外観察園」と呼ぶ) は名古屋大学東山キャンパスの南西に位置する広さ約 4000 平米の緑地である。約 50 年前に造成されて以降、名古屋大学の研究や教育用の植物がここに植えられてきた。元来の管理部局であった教養部が組織改編されて以降、情報文化学部の管理などを経て、2003 年からは生きた展示の場として名古屋大学博物館が使用している。野外には約 400 種、温室には約 200 種の維管束植物が生育しており、その他にハッチョウトンボや野鳥なども観察できる、自然教育に適した環境を維持している。

野外観察園には実験用植物を育てる圃場や温室のほか、雑木林やナラ類の半人工林がある。圃場周辺にはトンボ用の水鉢があり、また林内には水の溜まる場所もある。こうした多様な環境がさまざまな植物の維持に貢献しており、中には鳥や風に運ばれて自然に分布した植物なども見られる。この顕花植物については、これまでも西田・吉野 (2004)、吉野・西田 (2006) などで報告を行ってきたが、蘚苔類などの調査はまだ行われてこなかった。そこで今回、博物館で蘚苔類の展示を行うことを契機に、野外観察園のとくに見学者がよく目にする見学者通路や温室を中心に、蘚類の採集・同定を行い、野外観察園の蘚苔類の多様性に関する予備的調査とした。

方 法

標本採集は、2012 年 3 月 30 日に行った。調査場所は、名古屋大学博物館野外観察園の見学者通路およびトンボ用水鉢と温室周辺である。これは、今回の調査の主な目的が、野外観察園を訪れる見学者への蘚類の教育として種名を掲示することだったためである。野外観察園には他にも蘚苔類が生育

できそうな場所が多数あるが、今回は予備的な調査として上記の場所のみで採集を行った。

採集した標本は自然乾燥させた。また生育時の状態を記録するため、吉野が写真撮影を行った（図1, 2）。標本の同定は坪田が行った。乾燥標本は名古屋大学博物館に収蔵した。

結果と考察

今回の調査では9つの標本を採集できた。これらは同定の結果、すべて異なる種であった。このことから、野外観察園における蘚類の多様性は潜在的に高い可能性がある。今回確認された蘚類は、公園や市街地に近い場所で一般的に見られる種であった。見学者への蘚類の教育という観点では、もっとも見分け易いのはネズミノオゴケ *Myuroclada maximowiczii* (G.G. Borshch.) Steere & W.B. Schofield (図1A) やウマスギゴケ *Polytrichum commune* Hedw. (図1E) があげられる。また、比較的人工的な環境にもかかわらずヤナギゴケ *Leptodictyum riparium* (Hedw.) Warnst. (図2A) が確認され、園内の場所によっては常に湿度が保たれる場所もあることが分かる。特筆すべき種としてはイセノテングゴケ *Rhynchostegium ovalifolium* S. Okamura (図2C) があげられる。本種は、高木

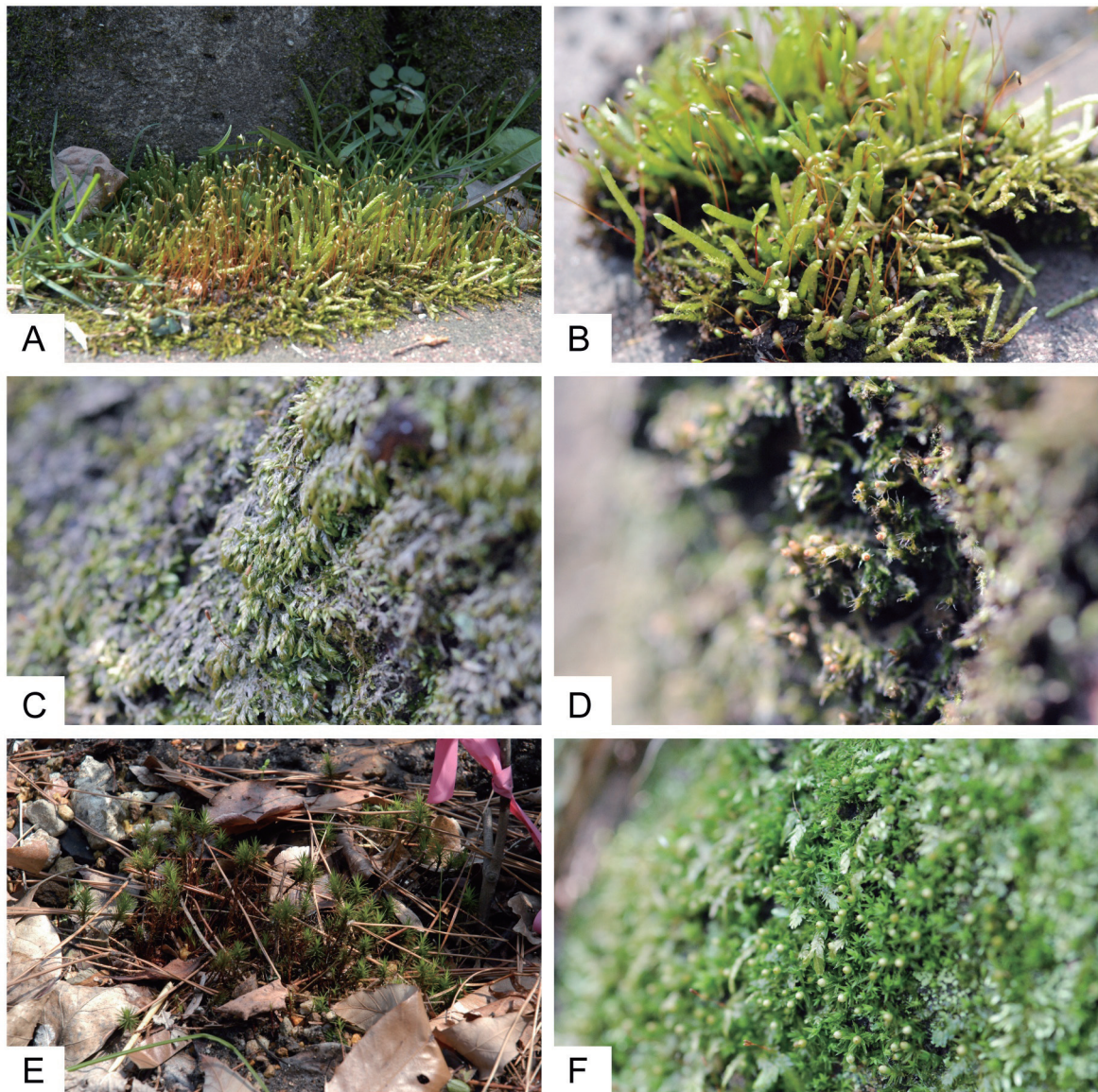


図1. 名古屋大学博物館野外観察園で採集された蘚類。A. ネズミノオゴケ（胞子体をつけたコメバキヌゴケと混生）、B. コメバキヌゴケ、C. ヒロハツヤゴケ、D. ヒナノハイゴケ、E. ウマスギゴケ、F. タチヒダゴケ（コダマゴケ）。

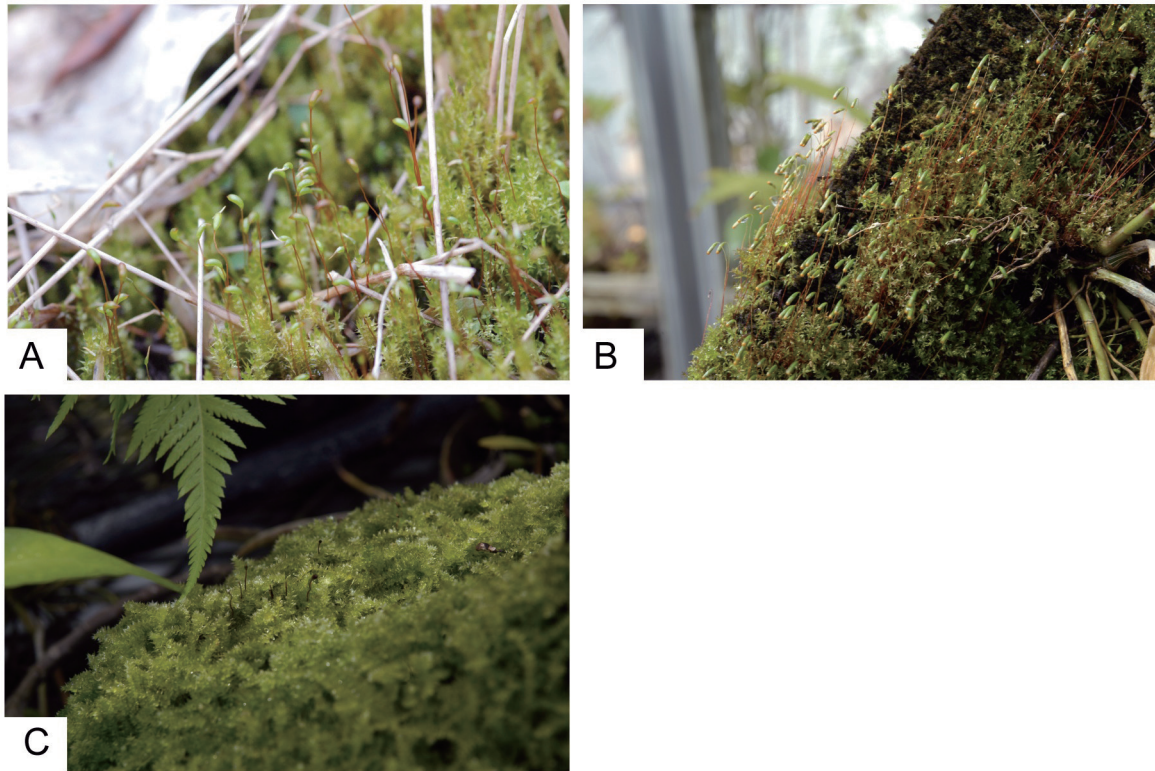


図2. 名古屋大学博物館野外観察園で採集された蘚類 (続き). A. ヤナギゴケ, B. ハリガネゴケ, C. イセノテングゴケ.

表1. 名古屋大学博物館野外観察園で採集された蘚類標本の一覧. いずれも採集日は2012年3月30日, 採集者は西田佐知子と吉野奈津子.

標本番号	和名	学名	科名 (学名)	生育環境
NUMBR001	ネズミノオゴケ	<i>Myuroclada maximowiczii</i> (G.G. Borshch.) Steere & W.B. Schofield	Brachytheciaceae	園歩道脇の土の上, 縁石の北側の石と石の間. 常に日陰だが夏場はカラカラに乾燥. NUMBR002と混生.
NUMBR002	コメバキヌゴケ	<i>Haplocladium microphyllum</i> (Hedw.) Broth.	Thuidiaceae	NUMBR001と混生.
NUMBR003	ヒロハツヤゴケ	<i>Entodon challengerii</i> (Paris) Cardot	Entodontaceae	モモ幹上 (地面から30cm上). 樹木の北側に多く生育.
NUMBR004	ヒナノハイゴケ	<i>Venturiella sinensis</i> (Venturi) Müll.Hal.	Erpodiaceae	モモ幹上 (地面から1m上). 樹木の北東側に多く生育, 樹皮と共にコケがはがれおちているところもあり. 夏場は乾燥している
NUMBR006	ウマスギゴケ	<i>Polytrichum commune</i> Hedw.	Polytrichaceae	岐阜県高富大龍寺 (だるま寺) の墓地より移植 (墓地を壊すとのことでもらい受けた). チラチラと木漏れ日が入る程度の林床の土上に植栽.
NUMBR007	タチヒダゴケ (コダマゴケ)	<i>Orthotrichum consobrinum</i> Cardot	Orthotrichaceae	ヒトツバタゴ幹上 (地面から約20cm上). 樹木の北側に生育. 夏場は乾燥している.
NUMBR008	ヤナギゴケ	<i>Leptodictyum riparium</i> (Hedw.) Warnst.	Amblystegiaceae	屋外の地表面すれすれに埋められた, 直径60cmほど水鉢の中. 他の植物の根で湿地状になっている.
NUMBR009	ハリガネゴケ	<i>Rosulabryum capillare</i> (Hedw.) J.R. Spence	Bryaceae	へご板の上. 定期的に灌水される温室内のラン栽培温室内. 常に湿潤. 遮光してあり直射日光は当たらない.
NUMBR010	イセノテングゴケ	<i>Rhynchostegium ovalifolium</i> S. Okamura	Brachytheciaceae	NUMBR009と同じ温室内, 植木鉢内の土の上

典雄名古屋大学名誉教授が専門のひとつとしていたアオギヌゴケ科の蘚類である (Takaki 1955a, b, 1956). 分類学的な問題がある種であるが, 既知の産地が少なく, 今後の分類学的・分子系統学的な研究への活用が期待できる. 今回は予備的調査であることと教育目的のため, 採集地点を限ったが, 今後, 苔類も含めたより包括的な多様性調査を行うことが望ましいと考える.

引用文献

- 西田佐知子・吉野奈津子 (2004) 名古屋大学博物館野外観察園の植物標本リスト I 春から夏咲く植物. *名古屋大学博物館報告* **20**, 113-120.
- Takaki, N. (1955a) Researches on the Brachytheciaceae of Japan and its adjacent areas (I). *J. Hattori Bot. Lab.* **14**, 1-28.
- Takaki, N. (1955b) Researches on the Brachytheciaceae of Japan and its adjacent areas (II). *J. Hattori Bot. Lab.* **15**, 1-69.
- Takaki, N. (1956) Researches on the Brachytheciaceae of Japan and its adjacent areas (III). *J. Hattori Bot. Lab.* **16**, 1-71.
- 吉野奈津子・手塚修文 (2003) 名古屋大学野外観察園の生物. 名古屋大学博物館インフォメーションシリーズ 1.
- 吉野奈津子・西田佐知子 (2006) 名古屋大学博物館野外観察園の植物標本リスト II. *名古屋大学博物館報告* **22**, 203-210.

(2012年10月15日受付)